

犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発

○小泉 令三 (福岡教育大学教育学研究科)

箱田 裕司 (九州大学大学院人間環境学研究院)

大上 渉 (福岡大学人文学部)

■概要

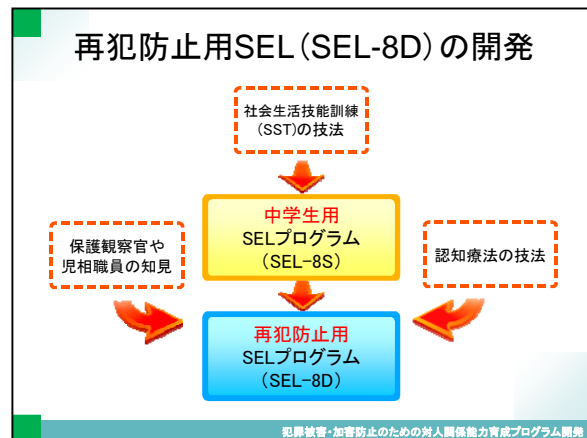
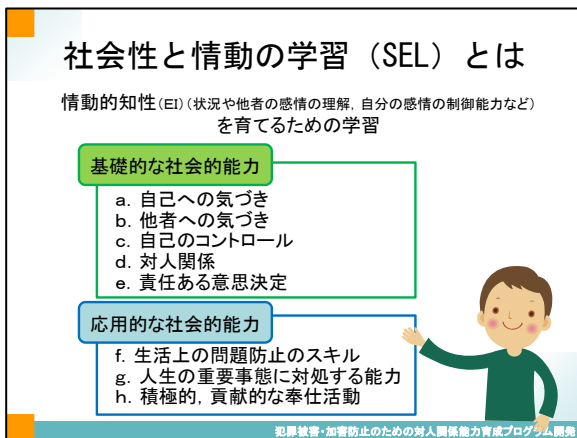
小中学生が非行の被害者や加害者にならないための予防教育及び非行少年の再犯防止のための矯正教育において、対人関係能力と自尊感情の育成に重点を置いた学習プログラム(社会性と情動の学習プログラム(Social and Emotional Learning)、以下SEL学習プログラムとする)を開発し、学校と保護者と大学、あるいは矯正教育機関と大学が連携しての長期間の実践により、その効果を検証する。また、効果の検証には、対人関係能力の客観的側面を測定できる手法を開発し、従来よりも多面的な効果測定法を提案して今後の教育実践に貢献する。

■プロジェクトで取り上げる社会問題の現状や背景・社会的ニーズ

小中学生が犯罪の被害者や加害者にならないために、予防的な教育プログラムの必要性が高まっている。従来は問題行動に関する科学的な知識を提供することが中心であったが、それだけでは不十分であり、対人関係能力(情動的知性=状況や他者の感情の理解、自分の感情の制御能力など)を高め、自尊心を向上させることが子どもの安全を守る上で必要であると言われている。さらに、こうした実情は非行を犯した少年の矯正教育プログラムにもそのまま該当する。

■このプロジェクトで目指す成果とその対象

1. 一般の小中学生を対象とした対人関係能力向上と自尊感情の育成に重点を置いた学習プログラム(SEL-8S学習プログラム)開発
2. 非行少年や不良行為少年等を対象とした再犯防止のための、同様の矯正教育プログラム(SEL-8D学習プログラム)開発
3. 対人関係能力の客観的側面を測定できる手法の開発



■科学的手法・知見の活用・創出




1.対人関係能力（情動的知性）の測定には、従来は自己報告式のアンケートが中心であり、一部で他者評価が取り入れられている程度である。本プロジェクトでは、より客観的な測定が可能となるように次のようなテストを開発する。


- ・表情認知テスト：顔の表情への反応を測定する
- ・状況理解テスト：状況を理解して、他人に共感する能力を測定する
- ・危険予知テスト：危険を察知する能力を測定する

2.予防的な教育プログラムによって、対人関係能力（情動的知性）を高め自尊心を向上させることができるかどうかを検討するために、科学的に子どもに関するデータを収集・分析する。

能力テスト①：表情認知テスト

この顔、どんな気持ち？

	いかり	よろこび	かなしみ	おどろき
	おどろき	かなしみ	よろこび	いかり
	かなしみ	いかり	よろこび	おどろき



表情から感情を読み取る能力を測定する

犯罪被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発

能力テスト②：状況理解テスト

どんな場面？

B子ちゃんがとても大切にしていた本を、Aくんが「かしてよ」と言って、とってしまいました。その様子をB子ちゃんの友達C子ちゃんがとりにて見えています。



問題1 B子ちゃんの友達C子ちゃんは何な気持ちでしょうか？

問題2 なぜ、C子ちゃんは、そんな気持ちになったのでしょうか？

状況を理解し、他人の感情を推測する能力を測定する

犯罪被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発

能力テスト③：危険予知テスト

どこがあぶない？

あなたは今、学校から家に帰っているところです。この道路の左側を、まっすぐ歩いて帰っています。



問題1 写真からどんな危険が考えられますか？

問題2 まっすぐ道を歩いて行くと、車の中から男の人が話しかけてきました。男の人の話を聞くと、どんな危険が考えられますか？

危険を予測し、犯罪から身を守る能力を測定する

犯罪被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発

■今年度の活動報告

- ・SEL-8S 学習プログラムの完成（小学校 54 ユニット，中学校 36 ユニット）
- ・SEL-8S 学習プログラムの実践（中学校 1 校，小学校 2 校）
- ・SEL-8D 学習プログラムの開発と実践
- ・能力テストの開発と改善
- ・日本心理学会公開シンポジウム『頭の良さについて考える IQ と EQ』の開催

プロジェクト HP : <http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/index.html>